

現況分析の審査体制の強化について (案)

国立大学教育研究評価における、学部・研究科等ごとの【現況分析】が重要視されており、分析項目ごとの段階判定(4段階)に当たり、学系別の記載項目を設定したことに伴い、第2期よりも精緻な審査が求められる。

【第3期中期目標期間 教育研究評価 分析項目の構成イメージ (教育の場合)】

《第2期》



《第3期》

(教育)

分析項目	観点
I 教育活動の状況	観点1-1 教育実施体制
	観点1-2 教育内容・方法
II 教育成果の状況	観点2-1 学業の成果
	観点2-2 進路・就職の状況

(教育)

分析項目	記載項目
I 教育活動の状況	必須記載項目1
	必須記載項目2
	...
	選択記載項目1
II 教育成果の状況	選択記載項目2
	...
	必須記載項目1
	必須記載項目2
	...
	選択記載項目1
	選択記載項目2
	...

学系ごとに複数の記載項目を設定

大学機関別
認証評価との
関係を考慮

大学機関別
認証評価との
関係を考慮



- ◆ 国立大学の学部・研究科等ごとに主要な専門分野をカバーできるよう、現行の一組織当たりを主担当1名+副担当1名から、一組織当たり主担当1名+副担当複数名とし、一組織当たりの評価者を増やす。



- ◆ 計11学系の各学系部会においては、第2期よりも副部会長を多く選出し、各学系内の主要な専門分野間の調整機能等を強化。

【参考：第2期】

学系部会ごとに、部会長1名+副部会長3名程度。